

11月 29日

区長懇談会を開催



駐在所の統合などの情報について質疑をする区長

市内全地区の区長を対象に、多目的会館で区長懇談会が開催されました。当日は、約80人の区長が参加し、市長からの市政報告の後、大前と田子内集落区長から「元気の出る集落運営」について発表がありました。

坂本九氏の兄が講演

11月 2日



「帆引き船フェスタ」関連事業として、坂本九氏の実兄 坂本照明氏の講演会を農村環境改善センターで開催しました。郷土資料館では、特別展「帆引き船と坂本九」を1月12日まで開催しています。

坂本九氏の祖父 坂本金吉は、田伏出身で、帆引き船を秋田県八郎潟に広めた人物として、本市と深いかわりがあります。

11月 6日～10日

市遺族会がマレーシア戦跡慰霊巡拝

異国に眠る御霊に慰霊の誠を数多くの尊き命が失われた先の大戦から63年の月日が過ぎ去りました。しかし、240万のうち未だ116万余もの御柱が祖国日本へ帰ることができず、遠い異国の地に眠っています。

このほど、かすみがうら市遺族会（山内庄兵衛会長）が海外戦跡慰霊巡拝として、11月6日から10日までの5日間に渡り、マレーシアの戦跡慰霊巡拝を実施しました。

一年置きに行われるこの慰霊巡拝には、市遺族会を中心として市内外から山内会長を団長に18人が参列し、先の大戦で戦地となった、クアラルンプール、ラバン、コタキナバルで慰霊祭を挙行了しました。

参列者の方々は、気候や環境などの変化に戸惑いながらも、一致団結して異国の地に眠る御霊に対して、慰霊の誠を捧げました。

異国に眠る御霊に慰霊の誠を数多くの尊き命が失われた先の大戦から63年の月日が過ぎ去りました。しかし、240万のうち未だ116万余もの御柱が祖国日本へ帰ることができず、遠い異国の地に眠っています。

このほど、かすみがうら市遺族会（山内庄兵衛会長）が海外戦跡慰霊巡拝として、11月6日から10日までの5日間に渡り、マレーシアの戦跡慰霊巡拝を実施しました。

一年置きに行われるこの慰霊巡拝には、市遺族会を中心として市内外から山内会長を団長に18人が参列し、先の大戦で戦地となった、クアラルンプール、ラバン、コタキナバルで慰霊祭を挙行了しました。

参列者の方々は、気候や環境などの変化に戸惑いながらも、一致団結して異国の地に眠る御霊に対して、慰霊の誠を捧げました。



コタキナバルの日本人墓地で追悼の辞を読み上げる市遺族会の参列者

小型ポンプ操法の部で“上佐谷地区”が県優勝

11月 15日



優勝した消防団第1分団第4部の皆さん

消防ポンプ操法大会で実力を発揮茨城県立消防学校にて「自治体消防制度60周年記念茨城県消防ポンプ操法競技大会中央大会」が開催され、小型ポンプ操法の部において、かすみがうら市消防団第1分団第4部（上佐谷地区）が日頃の練習の成果を十分に発揮し、見事優勝しました。

この大会には、県内7地区で開催されたそれぞれの優勝チームが出場し（ポンプ車操法の部7チーム・小型ポンプ操法の部4チーム）、各隊員の操作・行動・動作全般ならびに有効放水までの所要時間について競い合ったものです。

第一分団第四部は、7月に開催された、市ポンプ操法大会、10月に開催された新治地区大会に続いての3大会連続優勝となりました。

「上位入賞者は表現と技術の表れ」と審査員をうならせる見事な写真が勢ぞろい。第8回目となる「霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト」の入賞作品が選ばれ、11月22日の「霞ヶ浦帆引き船まつり」（あじさい館）で表彰式が行われました。

霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会 事務局
市観光商工課 ☎内線 2526

審査員特別賞・霞ヶ浦河川事務所長賞



「帆影」見富 昌信さん（埼玉県さいたま市）

最優秀賞・市長賞（小中学生の部）



「どこまでも続く橋」中村 優さん（宍倉）

最優秀賞・市長賞（風景の部）



「光芒」飯嶋 清さん（加茂）

市観光協会会長賞（帆引き船の部）



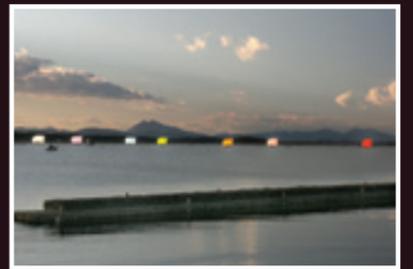
「夕景一城」熊木 士郎さん（土浦市）

第8回
霞ヶ浦帆引き船
フォトコンテスト
入賞作品紹介

2008

広報誌では、応募のあった273点の中から、9点の力作を紹介し、帆引き船の部最優秀賞は、表紙で紹介

優秀賞・市議会議長賞



「お披露目」丸森 勝造さん（土浦市）

土浦農業協同組合長賞



「大湖に浮かぶ」平野 隆一さん（ひたちなか市）

かすみがうら市商工会長賞



「帆引き漁」高塚 俊澄さん（土浦市）

市観光協会会長賞（風景の部）



「明け行く湖」斉藤 心伸さん（坂）

審査員講評

立木寛彦さん

（社）日本写真家協会会員
日本写真写真家協会理事
8年目を迎えたコンテストは写真の向上と共に大変質の高い作品が出品された。上位入賞者は表現と技術の表れと思えます。

「このテーマで長年続いてくるコンテストは数少なく、写真の内容と良さは水準を上げてきています。今後も皆様の素晴らしい写真を期待しています。」

沓掛博光さん

（筑波学院大学講師）

今年も素晴らしい作品が集まりました。力作ぞろいに審査の方も熱が入りました。これからは霞ヶ浦の水と風、そして人を見る者に伝えてくれる作品を期待します。

平井鏡太郎さん

（月刊「旅行読売」編集長）

これまでさまざまなフォトコンテストに携わってきただけに、限られた題材に取り組み応募者の苦心がよくなる。それだけにこれらの出品作品には創意工夫が大事になってくると思えます。